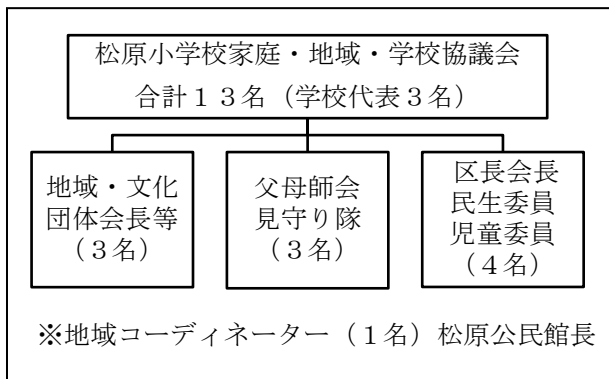


1 「家庭・地域・学校協議会」の運営について

(1) 「家庭・地域・学校協議会」の構成



(2) 協議会の内容

- <第1回> 7月9日
 - ・主旨説明、活動内容の説明
 - ・運営計画について
 - ・授業参観
- <第2回> 10月31日
 - ・1学期の学校の様子について
 - ・「地域安全・健全育成・ふるさと」各委員会での取り組みについて
- <第3回> 2月26日
 - ・学校評価について
 - ・本年度の総括と来年度にむけて

(3) 協議会における成果と課題

地域での自転車の乗り方について協議し、父母師会（PTA）とともに、保護者への呼びかけを強化することができた。また、家庭・地域・学校が一体となって見守り活動を行い、登下校の安全確保に努めた。

2 地域と進める体験活動

(1) 活動のねらい

地域の自然や行事、人との関わりの中で、児童が地域の持つ課題を見つけ、解決する体験活動を行うことで地域に誇りと愛着を持つようになり、市民として今後のふるさとに貢献できる素地を育てる。

内容としては、日本三大松原の一つである「気比の松原」を守り育てるための活動、開港120周年を迎える敦賀港の歴史や現在の様子を調査する活動、とうろう流しや花火大会について学習し、戦後の敦賀市の復興の歩みを学ぶ活動を行う。

(2) 活動の実際

① 「気比の松原」を守り育てるための活動（5・6年生）

本校は、日本三大松原の一つである「気比の松原」に隣接している。この松原公園内をマラソン大会のコースとして、また、業間運動の持久走のコースとして利用しており、児童にとっては、もっとも身近な地域の自然である。

しかし、この松原の景観が徐々に変化してきている。そこ



で、福井森林管理署、気比の松原100年構想推進連絡協議会、気比の松原を愛する会の協力を得て、気比の松原の歴史や植生遷移の仕組みを学んだ。さらにマツを健全に育てるためには、落葉による腐植層体積を防ぐ土壌づくりの大切さを学び、自分達の手で取り組める方策として、松原森林体験活動（松葉かき）を行った。



②戦後の敦賀市の復興の歩みを学ぶ活動（6年生）

「気比の松原」で行われる「とうろう流しと大花火大会」は、日本海側最大級の規模で、海面のとうろうと夜空の花火が美しく彩る。しかしながら、今年で第70回となるこの会の起源を知る児童は少ない。

そこで、敦賀市観光協会、敦賀市観光交流課の協力を得て戦後の敦賀市の復興の歩みと大花火大会にかける先人の想いを学んだ。当初は、「とうろう作り」の体験活動も計画して



いたが、環境に配慮した水に溶けやすい「とうろう」に移行することから、体験には至らなかった。児童は、地域の環境保護と地域の伝統行事の在り方について考える機会となった。

また、これまでに学んだ敦賀の魅力を伝えようと、修学旅行先において広報活動に取り組んだ。大勢の方に積極的に話しかけ、手渡す活動に取り組んだ。広報活動に足を止めていただいた方から、一度敦賀を訪ねてみたいとメールが届き、広報活動を通して、ふるさと敦賀に貢献する体験活動となった。



(3) 地域コーディネーターの活動概要

- ・「気比の松原」の保全に係る関係団体との連絡調整及び活動内容の説明。
- ・「とうろう流しと大花火大会」に係る関係団体との連絡調整及び概要の説明。

(4) 特に工夫した事項

- ・ 日常生活の中で、「当たり前」に目にしているものを、現地に赴きあるいは体験活動を通して、自分たちの目で見つめ直す機会を設定した。
- ・ 花火の製造業、観光に携わる方々から直接お話を聞くことで、日常では見られない準備や工夫についても視野を広げることができた。

(5) 成果と課題

子ども達にとって、身近にあるがゆえに、見えているようで見えていない、知っているようで知らないことが多い。この事業を通して、マツの保全活動に汗を流し、修学旅行先では、積極的にパンフレットを配布する等、地域の自然や行事、人と関わることで「地域を見つめる視点」を育て、地域に誇りと愛着を持つ姿が見られた。

今後も、児童1人1人の「地域を見つめる視点」を育成するとともに、地域の課題として意識したことを、自分ごととして解決に取り組むため、個人活動の設定も必要である。